

女たちと空っぽの墓

ルカ福音書24:1-12

(新改訳2017訳)

- 24:1 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。
- 24:2 見ると、石が墓からわきに転がされていた。
- 24:3 そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。
- 24:4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。
- 24:5 彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。
- 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出しなさい。
- 24:7 人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」
- 24:8 彼女たちはイエスのことばを思い出した。
- 24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。
- 24:10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、
- 24:11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。
- 24:12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。

【祈りながら考えよう】

- (1) 墓に向かう女たちの心配事は何でしたか。
- (2) 途方に暮れていた女たちに、天の御使いは何を思い出すように告げましたか。
- (3) 女たちの報告を聞いた使徒たちは、なぜ信じなかったのですか。

【解説】

今日の学びの箇所は、マタイ、マルコ、ヨハネにもあるから、そちらの方も先に読んでおこう。

(1) イエスを慕って墓に来た

《明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た》

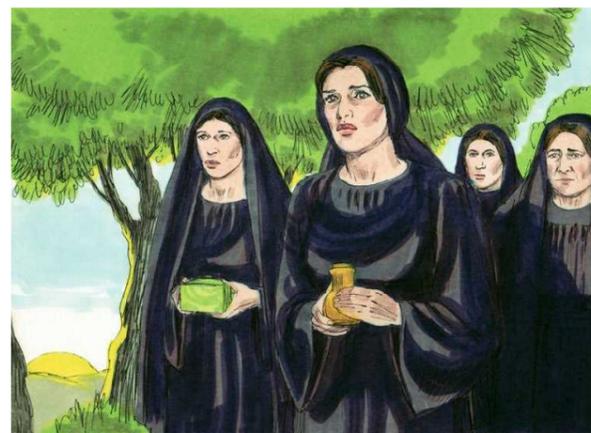
①女の弟子たち

安息日(土曜日)はいっさいを休まなければならない。墓に行くことができない。

だからこの前の所にあったように、イエスを埋葬すると共に、安息日が始まる日没前に、大急ぎでこの女の弟子たちは香料と香油とを用意した。

安息日は、今で言えば金曜日の日没時から土曜日の日没時までである。しかし暗い夜に墓に行くことはできない。だから夜明けをひたすら待った。夜が明けるや、待ちかねた女たちは、かねて用意した香料を携えて墓に向かった。

この女たちの心は、イエスの遺体を香料で包みたいという、イエスを慕う心だけであった。



②男の弟子たち

それに比べて男の弟子たちはどうであったのか。たぶん、イエスと共に最後の晩餐を持ったあのエルサレムの家の(マ

ルコの母親の家だと言われている)が、その二階の部屋に閉じこもっていたようである。そして何を考えていたのか。イエスのこともあったが、自分たちのことがあまりにも強くあった。

今までイエス様を当てにしてついてきた。このお方についていくなれば、今は苦勞しても、このお方は、この地上にあってユダヤ人の王となる、そして自分たちがその栄光にあずかる。

ところが、十字架にかかってイエスは死んでしまった。それは彼らにとっては思いもよらぬことであった。それゆえに途方にくれて、これからのこと、どうしたらいいのか、皆で考えあぐんでいた。

(2) ただ主を慕い神を求める信仰

男の弟子たちは、イエスと共に働く存在であった。勇ましく、忠実に見えた。女の弟子たちはい陰の存在であった。ルカ福音書だけが、以前学んだ8章のはじめに、この女たちのことを述べている。

《その後、イエスは町や村を巡って神の国を説き、福音を宣べ伝えられた。十二人もお供をした。また、悪霊や病気を治してもらった女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、そのほか多くの女たちも一緒であった。彼女たちは、自分の財産をもって彼らに仕えていた》(ルカ8:1-3)

女たちはイエスを慕いつつあとに従い、男の弟子たちのように目立たず、その陰にあって、できる限りの奉仕をしてきた。持てる者は持っているもので、一行のために奉仕をしていた。それはまことに目立たない姿であった。しかし、十字架、埋葬という出来事が起こった時に、今まで目立っていた弟子たちが影をひそめ、今まで陰にいたこの婦人たちが表に現れている。

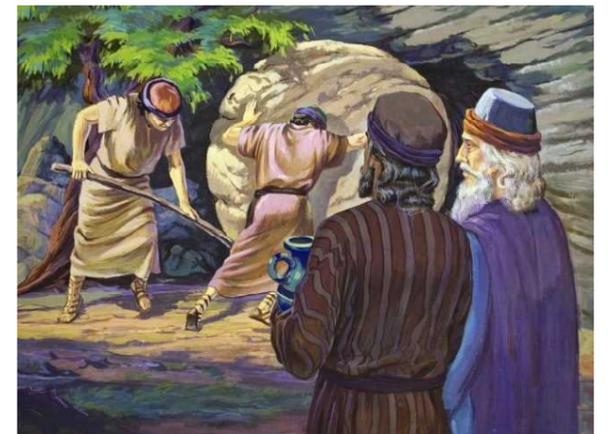
男の弟子たちもやがて、キリストの十字架と復活、そして昇天、さらにあのペンテコステの日における聖霊の降臨において、全くその内容を一変させられ、ただ主を慕い、神を求める存在となっていった。これを身をもって証しする者となっていった。しかしこの時には、まだ、主より付き物の方が大きく、心を占有していた。

(3) 主への思いが心配に打ち勝って

マルコ福音書によると、女たちが香料を携えて墓に向かって急いで行くその途中で、心配な事が1つあった。それは、墓の入口は大きな石でふさがれている。その石は屈強な男が何人もかからなければ動かせない石である。

自分たちだけで行ったところで、どうやって石を取り除くことができるか。それが心配であった。そんなことを道々、話ながら行った。具体的な心配である。しかし、主を慕う心が、その心配に打ち勝って、墓に向かわせた。

だれか男の人を呼んでこようかとは思わない。心配はあったが、心配よりも主にお会いしたい、早く主のお体に香料を塗りたいという心の方が上まわっていた。



(4) 石に封印し墓の番を配置する

《明るる日、すなわち、備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのところに集まって、こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『わたしは三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。

そうでないで弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうになると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。》

ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」そこで彼らは行って番兵たちとともに石に封印をし、墓の番をした》(マタイ27:62-66)

これはマタイの特有の記事である。主の死と復活に関して、マタイだけが記している独特なことは、ユダヤ教側がとった処置と、苦しまぎれのデマである。

ここで、「備え日の翌日」と言われているのは、安息日のこと。今日、キリスト者は、主の日である日曜日を明日にひかえた土曜日のことを、「備えの日」と言う。主日礼拝に対して心の備えをする日という意味である。

旧約時代の安息日であった土曜日の前日、つまり金曜日のことを、「備えの日」と呼んだ。ここで、マタイが「安息日」と言わず、わざわざ「備えの日の翌日」と呼んでいるのは、この備えの日に起こった主イエス・キリストの十字架の死の重大性を強調したかったからであろう。

①ユダヤ人たちのメシヤ観

イエスはご自分が、祭司長、パリサイ人たちに殺されて、三日目に甦るといことをお告げになった。しかし、一番近くにいた肝心な弟子たちが、その言葉が念頭になかった。少なくとも三度、イエスは受難の予告をなさって、そのたびに甦ることを語られた。しかし、弟子たちには、イエスが死ぬなど、そんなことは考えられないことだった。

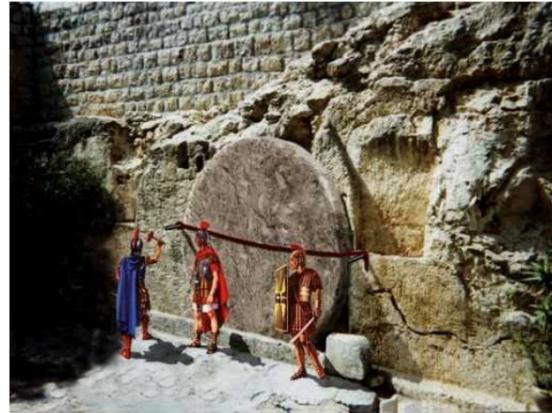
キリストとして神よりおいでになったお方であるなら、たとえ苦難の道を通られても、その果ては必ずこの地上の権威を打倒して、異邦人に圧迫されているユダヤ人、神の選民を解放され、神の国を実現なさると考えていた。これが当時のユダヤ人のメシヤ観であった。

弟子たちもそういう考え方でイエスを見ていたから、受難の予告を三度までなさっても、比喩のこのようにしか受け取らなかった。

②イエスの甦りの予告の言葉が気になる

ところが、イエスを憎み、揚げ足を取ろうとしていた祭司長、パリサイ人たちが、かえってイエスの言葉を聞いていた。

イエスが受難と甦りの予告をなさった言葉が彼らの心にあった。彼らはイエスを殺すことに成功したが、予告の言葉が気になってきた。そこで、ピラトの所へ申し出て、その石に封印をし、墓番を置くことになった。



(5) 石は墓から転がされていた

マルコ16章3-4節で見ると、
《彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた》話し合いながら墓に向かっていた。

《ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった》(マルコ16:4)

《見ると、石が墓からわきに転がされていた》(ルカ24:2)

私たちも、心配しないでいい事を心配する弱さがある。しかしその度毎に教えられることは、何にも心配する必要はなかったということである。愛なる神は私たちの憂いに対して、いつでもこの《ところが》でもって顧みて下さる。

石がどうして動かされたのか、誰が動かしたのか。いつ転がされたのか。その説明は、マタイ28章1-4節に記されている。

《さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった》

主の御使いが天から降りて来て、大きな地震が起こり、石がまるで小石が放り出されるように簡単に転がされてしまった、ということがわかる。



(6) 主に出会う場は途方にくれた場

《そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。》

彼女たちが目当てとしてきたのはイエスの遺体である。しかしその体が墓の中に見えない。肝心なイエスの体がない。そのために途方にくれたしまった。

この途方にくれたどうしようもない行き詰まりは、かつて経験したことのない全く新しい出来事への転換点となる出来事であった。今まで求めていたのは肉のイエスである。死んだイエスである。しかし今、イエスは見当たらない。それは本当のイエスに対する求め方ではなかった。

ここから真に仰ぐべきキリストが求められていく出発が始まる。その取り次ぎをしたのが、《まばゆいばかりの衣を着た人が二人》すなわち、御使いである。

なおそこで主を求めていく時、そこで、今までと違ったすばらしい生きたキリストに出会うのである。

(7) 主がお話しになったことを思い出さない

《その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。

人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。》
墓が空っぽということで、女たちは途方にくれたしまった。しかしイエスは死人の中に求めるお方ではない。これはルカ福音書で言えば、9章22節で弟子たちに、すでに言われたことである。

《そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日目によみがえらなければならない、と語られた》

このイエスの言葉を思い出したら、墓が空っぽになっていることは、何も驚くことではなかった。イエスは甦られた。言われた通りになったと、この墓を見ることができる。

私たちも、しっかり御言葉を聞いて受け入れていくことが大切である。御言葉がしっかり入っていれば、何か起こった時でも、ああそだとすぐにわかる。

(8) 兵士たちに口止め料を与えてデマを吹聴する

イエスの遺体がなくなっていることを知った番兵たちは驚き、都へ帰って祭司長たちに報告した。番兵たちの報告は、天の御使いたちが降りて来て、地震が起こり、石は動かされ、封印は破れ、イエスの遺体に巻かれていた亜麻布だけがそこにあって、遺体はないこと、さらに女たちへの御使いの説明を立ち聞きしたところでは、すでにイエスは甦っているらしいことなどであったろう。

これほど有力な復活の証拠が含まれた報告を聞いたにもかかわらず、祭司長や長老たちは、ローマの兵士たちに口止め料として金を与え、「弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った」と言いなさい(マタイ28:12-13)と言って、デマを吹聴しようとしている。

(9) イエスの復活は愚かな話か

《彼女たちはイエスのことばを思い出した。そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話した》

女たちの報告を聞いた弟子たちがどうだったか。心躍らせて喜んだか。そうではなかった。全然逆であった。

《この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった》

女たちがイエスを慕うあまり幻を見たか、聞いたか、そういう迷いごとだ、少し頭がおかしくなった者の単なる言葉だ、そんなふうにしき受け取らなかった。全くばからしい話、てんで話にならないこと、そういうふうに思えて取り上げなかった、信じなかった。

三年間もイエスの教えを聞き、そのみわざを見、そして何もかもイエスを知っており、イエスを慕い、尊敬していた使徒たちすら、この女たちの、イエスの甦りの報告を聞いて、全く愚かな話と信じて信じられなかったというのであるから、イエスの復活ということが世間一般には信じられないのは当たり前のことであろう。

パウロが哲学の都アテネで伝道した時(使徒17章後半にある)に、はじめのうちはパウロの話を熱心に聞いていた。新しい教えかもしれないということで聞いていた。ところが、イエスが十字架にかかって、三日目に甦ったと、甦りという話になった時に、今まで熱心に聞いていたある人たちは、あざ笑った。そしてまたあとで聞きましょうということで、みんな去って行ってしまった。人間が死んで、甦る。まことに愚かなことだ。そんなばかげたことは到底聞き耳を持たないというわけである。

科学の進歩が著しい今日、キリストが復活した、そんな話聞けるものか、と人は言う。しかし、キリストが復活したその日、男の弟子たちもそんな話は信じられなかったのである。



マタイ福音書28:1-15

- 28:1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。
- 28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。
- 28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。
- 28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。
- 28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。
- 28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおりに、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。
- 28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。』
- 28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。
- 28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。
- 28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」
- 28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。
- 28:12 そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、
- 28:13 こう言った。『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。
- 28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけるないようにするから。」
- 28:15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。



マルコ福音書16:1-8

- 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。
- 16:2 そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったころ、墓に行った。
- 16:3 彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。
- 16:4 ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。
- 16:5 墓の中に入ると、真っ白な衣をまとった青年が、右側に座っているのが見えたので、彼女たちは非常に驚いた。
- 16:6 青年は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょう。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。
- 16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおりに、そこでお会いできます』と。」
- 16:8 彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。[彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。その後、イエスご自身が彼らを通して、きよく朽ちることのない永遠の救いの宣言を、日の昇るところから日の沈むところまで送られた。アーメン。]

ヨハネ福音書20:1-10

- 20:1 さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。
- 20:2 それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」
- 20:3 そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。
- 20:4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。
- 20:5 そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかつた。
- 20:6 彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。
- 20:7 イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。
- 20:8 そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。
- 20:9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかつた。
- 20:10 それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

